

# 足袋蔵の案内板

日本遺産NO			サイン	誘導	
1	大澤久右衛門家 住宅・土蔵	(7)	日本遺産		
2	今津蔵	(9)	日本遺産 市指定文化財	 <p>今津印刷所は、元禄年間(1688~1703)創業と伝えられる老舗印刷所で、田山花袋の小説「田舎教師」の「行田印刷所」のモデルにもなっています。 嘉永年間(1848~1853)に棟上された間口3間・奥行6.5間の店蔵と、間口2間・奥行2.5間の味噌蔵が中庭を挟んで並んでいます。 店蔵は現存する市内最古級のもので、旧店舗部分が2階建てになっています。</p>	
3	森家土蔵	(10)	日本遺産		
4	十万石ふくさや 行田本店店舗	(13)	日本遺産 国登録有形文化財	 <p>この店舗は、呉服商山田清兵衛商店の11代山田清兵衛(伊三郎)によって、明治16年7月16日に棟上されたもので、行田では珍しい江戸様式の店蔵です。 昭和27年より足袋蔵となり、昭和44年に曳屋されて十萬石の店舗となりました。その後まごこが設けられ、平成24年の修理で白壁となりました。 行田市を代表する貴重な店蔵で、国登録有形文化財に登録されています。</p> <p>平成24年3月 行田市教育委員会</p>	
5	牧野本店	(14)	日本遺産	 <p>大正13年頃に建てられた豪華な店蔵、大正11年棟上の木造洋風工場、明治~大正期の足袋蔵等土蔵3棟が残る牧野本店は、全盛期の行田の足袋商店の様子を伝える貴重な建物群です。 現在工場部分を、NPO法人「ぎょうだ足袋ネットワーク」が「足袋とくらしの博物館」として土・日・祝日に公開しており、足袋の製造実演や行田足袋の歴史の展示が見学できます。</p>	
6	栗代蔵	(17)	日本遺産	 <p>この間口5間・奥行3間の2階建ての土蔵は、「フリダヤ」の名で親しまれている栗原代八商店の白壁の美しい足袋蔵です。明治39年に日露戦争後の不景気で仕事を欲しがっていた職人に建てさせた、と伝えられています。 栗原代八商店は、文化5年(1808)創業の老舗足袋商店で、「小町足袋」、「旗印足袋」の商標で手広く商売を営んでいました。</p>	
7	草生蔵	(19)	日本遺産	 <p>このコンクリートの水平ラインが印象的な2階建ての石蔵は、「金楽足袋」等の商標で知られた金楽足袋株式会社で、明治43年に住宅とともに建設した足袋蔵だと伝えられています。 市内で最も古い石造の足袋蔵だと思われそうですが、昭和初期に建て替えられている可能性も指摘されています。 現在は所有者が草生家に変わり、倉庫として使用されています。</p> <p>平成24年3月 行田市教育委員会</p>	

8	保泉蔵	(16)	日本遺産		 <p>保泉蔵</p> <p>この行田唯一の蔵並みは、かつて行田一の足袋原料商であった保泉商店の足袋の原料倉庫群です。 保泉商店は明治35年に創業し、明治42年に手前側の土蔵を買い取り移転しました。そして大正5年に間口10間奥行3間の奥の土蔵を新築、昭和元年2月には大谷石の店蔵を、昭和7年に一番奥の石蔵を建設し、西側を塗り壁で繋いでこの蔵並みを完成させました。</p> <p><small>行田市教育委員会 大澤家住宅旧文庫蔵 足袋蔵の足袋原料倉庫群</small></p>	
9	足袋蔵ギャラリー“門”・クチキ建築設計事務所	(18)	日本遺産		 <p>足袋蔵ギャラリー“門” クチキ建築設計事務所</p> <p>足袋蔵ギャラリー“門”、クチキ建築設計事務所 足袋蔵ギャラリー“門”とクチキ建築設計事務所は、共に“栄冠足袋”の商標で知られた奥貫家の足袋蔵として、大正5年に建てられました。 特に右側の建築設計事務所は、間口4.5間・奥行3間の行田唯一の3階建ての土蔵で、元は黒壁でした。 左側の間口4間・奥行3間のギャラリーでは、不定期ながら絵画展やコンサートなどの催しが開かれています。</p> <p><small>行田市教育委員会 大澤家住宅旧文庫蔵 足袋蔵の足袋原料倉庫群</small></p>	
10	イサミスクール工場	(20)	日本遺産		 <p>イサミスクール工場</p> <p>この工場はイサミコーポレーションの前身の鈴木勝次郎商店が開設した、現存する行田で最も古い大規模足袋工場（現在は被服工場）です。 工場内には、大正6年建設のノコギリ屋根を持つ木造洋風工場、大正7年4月建設の旧事務所、昭和13年12月建設のコンクリート製の足袋蔵などがあり、戦前の大規模足袋工場の面影を良く留めています。</p> <p><small>行田市教育委員会 大澤家住宅旧文庫蔵 足袋蔵の足袋原料倉庫群</small></p>	—
11	時田蔵	(15)	日本遺産		 <p>時田蔵</p> <p>丁字路の突き当たりにあるこの土蔵は、“かるた足袋”などの商標で知られた時田啓左衛門商店の足袋蔵です。 残念ながら建築年代は不明ですが、行田では珍しい、表通りに面した袖蔵形式の土蔵で、この奥にも明治36年に建てられた足袋蔵が連なっています。 左側の昭和15～16年頃に建てられた住宅と共に、行田の足袋産業全盛期の面影を残す貴重な建物群と言えます。</p> <p><small>行田市教育委員会 大澤家住宅旧文庫蔵 足袋蔵の足袋原料倉庫群</small></p>	—
12	田代蔵	(21)	日本遺産			
13	旧忍町信用組合店舗	(22)	日本遺産	市指定		
14	大澤蔵	(23)	日本遺産	市指定	 <p>大澤蔵</p> <p>“花形足袋”大澤商店の7代専蔵によって大正15年に建てられた、間口4.5間・奥行2.5間の2階建ての文庫蔵です。 行田唯一のレンガ蔵で、外面には登り窯で焼きされた焼通レンガが、ていねいに積まれています。黒目のレンガと白い漆喰の対比がモダンな印象を与えます。内部も贅を尽くした造りとなっており、“建築が第一の趣味”であった7代専蔵のこだわりが感じられます。</p> <p><small>行田市教育委員会 大澤家住宅旧文庫蔵 足袋蔵の足袋原料倉庫群</small></p>	

15	奥貫蔵 (あんど)	(25)	日本遺産		 <p>この間口9間・奥行3間の2階建ての土蔵は、「ほうらい足袋」の商標で知られた奥貫家が、大正～昭和の初め頃に建設したと伝えられる足袋蔵です。 「ほうらい足袋」の三代目奥貫芳三郎は、奥貫3兄弟の末弟として知られ、「行田足袋研究会」の幹事として、足袋産業の発展に尽くした功労者でした。 全盛期の行田の足袋産業の隆盛を象徴する大型で重厚な足袋蔵です。</p>	
16	和牛懐石『彩々亭』	(31)	日本遺産	国登録有形文化	 <p>足袋蔵歴史のまち 威めぐりモデルコース</p> <p>国登録有形文化財 旧荒井八郎商店 事務所兼住宅・大広間棟・洋館 平成19年12月5日登録</p> <p>この3棟の建物は、いずれも「穂国足袋」などの商標で知られた荒井八郎商店の創業者荒井八郎氏が建設したもので、現在は「和牛懐石『彩々亭』」の店舗となっています。東手前の事務所兼住宅が昭和元年、中央の大広間棟が昭和7年、西側の洋館が昭和10年に建設されたと伝えられています。 荒井八郎氏は行田足袋製靴工業組合理事長や全日本足袋工業組合連合会理事など足袋業界の要職を歴任するとともに、戦後参議院議員に当選するなど政治家としても活躍しました。その当時はこれらの建物が荒井八郎氏の迎賓館的役割を果たしており、氏と交流のある政財界をはじめ多くの人が訪れ、「彩袋園地」とも呼ばれていました。戦後の行田を代表する木造洋風（大広間棟のみ和風）建築であると言えます。 平成21年3月 行田市教育委員会</p>	—
17	行田窯	(26)	日本遺産		 <p>足袋蔵歴史のまち</p> <p>木造2階建てのこの建物は、元は「穂国足袋」の商標で知られた荒井八郎商店の足袋原料倉庫で、昭和初期に建設されたものと思われます。 同商店の手を離れた後にこの場所に曳家され、東半部が取り壊されましたが、現存する数少ない木造の足袋蔵として貴重な存在です。 現在は陶芸工房として再活用され、「行田窯」となっています。 平成22年3月 行田市教育委員会</p>	—
18	イサミ足袋工場	(28)	日本遺産		 <p>この工場は、現存する行田最大のノコギリ屋根の木造洋風足袋工場です。 正確な建築年代は不明ですが、昭和初期に組合工場として建てられたものを、イサミコーポレーションの前身の合名会社イサミ足袋本舗が買い取り、現在まで足袋工場として使用しています。 個人商店から企業へと発展したこの時期の行田の足袋産業を象徴する、住居地から独立した大規模足袋工場です。</p>	
19	鯨井家倉庫	(27)	日本遺産			
20	時田足袋蔵	(29)	日本遺産		 <p>足袋蔵歴史のまち</p> <p>この間口8間、奥行3間の土蔵は、「ひるぎ足袋」、「極細足袋」などの商標で知られた時田徳左衛門商店が昭和4年に棟上した足袋専用倉庫です。 時田徳左衛門商店は、明治26年(1893)に創業し、山形・宮城・山梨県を中心に販路を伸ばして成功を収め、この大型の足袋蔵を建設しました。 昭和初期の行田足袋産業全盛期の影響を伝える近代化遺産と言えます。 平成23年 行田市教育委員会</p>	
21	忠次郎蔵	(24)	日本遺産	国登録有形文化	 <p>国登録有形文化財 旧小川忠次郎商店 店舗及び主屋 平成16年7月15日登録</p> <p>この店舗は、足袋の料を贈った小川忠次郎商店の店舗及び主屋として昭和四十九年に完成した(天正十四年(一九五二年)七月棟上、行田の袋産業隆盛期を象徴する近代化遺産です。 店舗部分は洋風、土蔵造の隣建、主屋部分は香檳造、2階建て、北面と西面の壁を漆で塗り込めた、北風を意図した行田特有の防火的つくりとなっています。 内部1階は店舗部分の土間をもつてから主屋部分のナカマ、オケと縦列に並べる間取りで、2階に格調の高い座敷を設けています。なお、「ついで」構造は他の行田の店舗にも共通しています。</p> <p>行田商工会議所 行田市教育委員会</p>	



